

研究主題「このあと、どうしちやおう」からわたしをつくる図工の時間 目指す児童像 迷いや思いのゆらぎの中で、「わたしなり」に新たな価値をつくりだす子

I 団体の概要（通称：都図研・tozuken）



<都図研とは？ ◇ 東京都図画工作研究会の略称>

東京都各区市町村の教育研究会図画工作部員及び東京都公立小学校の図画工作専科の集合体が、「東京都図画工作研究会（略称：都図研）」である。全国組織「全国造形教育連盟(略称：全造連)」や「全国小学校図画工作教育連盟（略称：全小図連）」、また、「関東甲信越静地区造形教育連合（略称：関プロ）」の構成団体でもあり、他道府県との造形交流、他校種との交流も行っている。全国に約 1,800 人いる図画工作専科教諭のうち、約 1,300 人が都図研の会員である。

本研究会は、昭和 23 年（1948 年）に結成され、2025 年度で創立 77 年を迎えた。毎年 1 回、全 8 ブロックの地区からなる都図研大会を開催し、自主的で自由な精神を伝統に研究活動を継続している。

都図研最新情報は『都図研公式 HP <https://tozuken.themedia.jp>』で発信中！

II 研究の概要

昨年度まで、「子供×発見」をテーマとして「子供も大人も喜びあふれる図工の授業を追求」してきた。常に子供の姿に立ち返りながら、子供とともに図工の在り方を探っていくという研究を目指してきた。人工知能（AI）の進化や情報化が進む現代社会において、「実感を伴った発見」をしていくことが改めて重要になっている。昨年度の成果である、実感を伴う発見から表現活動の広がりとなる、そのときどきの「内的な動機」や「思い」を、図画工作科の学びの中で、如何に引き出すかということを改めて大切にしていかなければならない。

III 研究の目的・内容（令和7年度は2つの部に分かれて研究をすすめた。）

研究部テーマ

『このあと、どうしちやおう』からわたしをつくる図工の時間

図工の授業の中で児童が「迷ったりゆらいだり」する姿に着目することから研究をスタートさせた。

「このあと、どうしちやおう」を「造形的な思考の起こり」と捉えると、図工の時間の様々な場面にこの姿があり、発達段階によっても表出の仕方が異なる。「このあと、どうしちやおう」から「こうしちやおう」が生まれる瞬間には、今までの経験を積み重ねながら「わたしなりに」新たな価値をつくりだしたり、「わたしごととして」対象を捉えたりしている。造形的なキーワードは以下である。

【授業の始まりでの「このあと、どうしちやおう」】

「感じる・イメージする・考える」
⇒わくわく・さわってみたい・やってみよう

【授業の中盤での「このあと、どうしちやおう」】

「つくる・見る・つくりかえる・味わう」
⇒想像する・イメージを広げる・予測する・試す・確かめる・選ぶ・振り返る

【授業の終盤での「このあと、どうしちやおう」】

「終わりを決める・違いやよさを味わう・価値に気付く」
⇒表したのを見る・表したもので遊ぶ・振り返る

提案部テーマ「おもしろめる」

教師も子供たちと一緒に「おもしろい＝ワクワク」を感じるためカリキュラムの構築など、「おもしろいに向かう」ために実践を重ね、題材の手渡し方や環境設定などの研究を深めている。

IV 研究大会 西多摩大会

『ふれる ゆれる つくる』～豊かに「答え」をつかむ子～

(大会概要) <第63回東京都図画工作研究会研究大会西多摩大会>

令和7年12月5日(金) 会場:あきるの市立前田小学校

(大会テーマについて)

子供たちは日々、用具や自然、身の回りの現象に触れている。諸感覚を働かせて実際に触れることは、感性の深さや質に響く。しかし、バーチャルな体験からは、例えば、粘土の冷たさ、じっくり見たことからの気付き、自然物の鮮烈な香りなど、実感を伴って感性に響くものは得られないであろう。

(目指す児童像)

世界の面白さや美しさに諸感覚を通して触れ、感じたことを基に、つくりだす喜びを味わいながら自分なりの「答え」を多様な方法でつくりだすことができる子

(研究仮説)

諸感覚を通して触れ、感じたことを基に、思いや考え、問いなどをめぐらせながら試行錯誤を繰り返す造形活動を経験することによって、自分なりの表現を形成すると同時に、そのプロセスをつくらうとする豊かな図工の時間が生まれるであろう。

(テーマに迫るための手立て)

- ア 自分だったら・・・(主体性を引き出す)
- イ みんなの中で・・・(見方・感じ方を広げる)
- ウ もっともっと・・・(よりよくしたいという思いを実現させる)

(分科会)

- 手(触覚)をきっかけとして「手から」分科会
- 目(視覚)をきっかけとして「目から」分科会
- 耳鼻など(聴覚・嗅覚)をきっかけとして「耳鼻などから」分科会



大会当日は、300人を超える多くの方々に御来場いただき、充実した大会とすることができました。詳細については、令和7年度末発行予定の研究紀要や大会報告に掲載します。御指導・御助言いただいた教科調査官の小林様をはじめ、講師の皆様、御講演いただいた酒井様、御支援・御後援いただいた教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

V 研修会 東京都教育委員会研究推進団体支援事業



研修テーマ『かかわる図工～人/もの・場所/他教科から』を掲げ2回の研修会を開催した。多くの先生方が全都から参加した。児童の発達の段階や実態に合わせて、題材や領域のバランスを考えながら授業を計画していく中で、様々な「かかわる」活動をどのように取り入れていくと、児童が満足感を得て、充実した活動や時間につながるのかについて検討した。「人とのかかわり」分科会・「もの・場所」分科会・「他教科分科会」それぞれをローテーションして題材を実演したり材料に触れたり、実践交流をすることができた。最後に、講師の先生から「かかわる」ことをテーマに御講演いただいた。学びや活動の設定・工夫について、参加者と一緒に考えることができた。

<令和7年度連絡先>

団体名		東京都図画工作教育研究会	
代表者	所属	大田区立小池小学校	
	職氏名	校長 横山 圭介	
	連絡先	03(3729)5101	
事務局	所属	千代田区立お茶の水小学校	
	職氏名	主任教諭 渡邊 真理子	
	連絡先	03(3219)2157	
団体ホームページ	URL	https://tozuken.themedia.jp	
	二次元コード		